



厳島の守人

— 継承、先人が遺した伝統 —



《活動目的》

「地域の方を巻き込んで、中江町のファンを増やす」
↓
中江町に存在する『重伝建』に焦点を当て活動

《重伝建とは》

正式名称：重要伝統的建造物
国が選んだ「歴史的な町並みを丸ごと守るエリア」のこと

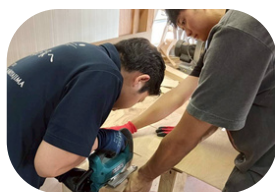
《なぜ重伝建？》

- ① 重伝建の活用方法や今後の在り方（改修・改装の方向性）について検討してほしいという地域の方からの要望があった
- ② 近年、食べ歩きが観光の主流となっているが、宮島本来の魅力は、歴史的建造物が良好な形で残されている点にあると考えられるため

《内容》

《住民/観光客向け》

たのも舟作りワークショップ



切り出し



廿日市市の地元企業からいただいた「木の端材」を使用



組み立て & 装飾
人形作成

「たのもさん」は、宮島の南町で昔から続く、夏の伝統行事
家族の無事や成長、そして農作物への感謝
を祈るために行われてきた。
実は、島ではかつて農業が禁じられていたため、
食料は対岸から分けてもらっていた。
それに対して感謝の意味を込めて、手作りの
小さな「たのも舟」を作り、家族分の人形や野菜を乗せて
海に流す習わしが生まれた。
夜になると、提灯をつけた舟が大鳥居の方へ
ゆっくり流れていき、幻想的な光景が広がる。
ワークショップの会場は、地元で昔から商店として
使われていた重伝建を使用。
家主の方が普段は入ることのできないこの場所を
「この"まち"のためならば」と開放してくださった。



完成



たのもさん当日
海に流す



通りかかりに足を止める
外国人観光客



舟の中にのせる団子
でできた人形

《住民向け》

第8回ちゅうえマルシェ



初の試みとして夜に開催



広島大学・帝京大学との集合写真



豚汁・おでん・甘酒
などの飲食販売



空き家から「地域交流の場」に



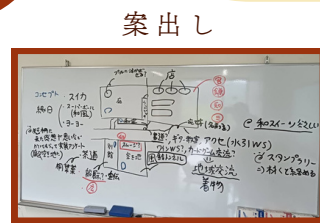
エリザベト音楽大学による
フルートコンサート

来場者が来るか不安だった

『夜のイベント』は意外にも**需要**があることを知った

4~8月

今年度の活動に関する 打ち合わせ & 準備



案出し
コンセプト決めに苦戦



掃除前



掃除後

使用するご近所の重伝建を掃除

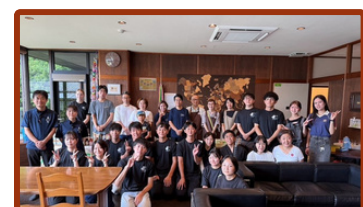
9月

《観光客向け》

第7回ちゅうえマルシェ



涼しむ参加者



「たのもさん」展示



「重伝建」展示



縁日



書道教室



おりがみ教室



飲食販売

「もう終わっちゃったんだね、
行きたかったな。」



地域の方

↑ 地域のおりがみ屋や
飲食店、旅館の方による協力があつた

と惜しむ声もあつた

マルシェの開催は想像以上に困難であった。
広島大学・帝京大学と連携して準備を進めたものの、規模が拡大するにつれ、
関係者間での情報共有が追いつかなくなった。
現地を熟知する私たちと、宮島を訪れたことのない学生との間では認識の違いが
生じ、意思決定に時間を要したため、調整の負担も増大した。
対策として、毎週オンラインミーティングを行い、情報共有をすることで、
学生間の交流も生まれた。
はじめは、三國屋寺澤さんのイベントに参加する立場であった中江町の方々が、
今年度の活動を通して、次第に運営側としてサポートする存在へと変化して
いった。そして活動の終盤には、中江町の方々が一つのテーブルを囲み、
主体的に話し合う姿が見られた。この光景は、寺澤さんが抱えていた「一人では
負担になる」という課題が、結果として解消に近づき、寺澤さんの活動が個人
の取り組みから地域の活動へと発展したことを示している。

『一人の思いが詰まった活動』が
『中江町の活動』へと発展した